

親切運動の取組について

富山県立福岡高等学校

生徒数 355名

1. 親切運動の取組の紹介

<募金活動>

能登半島災害募金、赤い羽根共同募金、心のともし運動といった募金活動を通じて、助けを求めている人たちや障害のある人たちの実情を知り同じ目線のなかで支え合うことの大切さに気づき人を思いやる心を育めるようにボランティア委員会が中心となり教室での呼びかけや文化祭での掲示物作成を通して協力を求めている。

<花壇の整備>

学校敷地内の花壇に、文化祭前には色とりどりの花を植えたり冬前にはチューリップの球根を植えたりと学校が華やかで、心の拠りどころとなるようにボランティア委員や情操委員で環境整備に努めている。また、地域貢献の一環として福岡駅前の花壇の水やりをしたり、にぎわい館に茶華道部が生花を生けたりしている。

<高岡聴覚総合支援学校との交流会>

毎年3月に高岡聴覚総合支援学校と交流会を行い吹奏楽部の演奏に合わせて生徒会がダンスをボランティア委員が手話を行っている。また、交流活動では、お互いの学校について質問し合ったり、本校生徒が聴覚総合支援学校の生徒から手話を習ったりしている。地域住民の方々も多数観覧され、聴覚総合支援学校の生徒共々楽しみにしている取組となっている。本年度も3月4日（火）に開催を予定している。



2. 親切運動に取り組んで

- ・取組の成果・・・地域の発展とともに歩む本校として、長年続けている地域交流活動は生徒たちに多くの出会いや様々な体験を通じて、たくさんのチャンスを与えてくれる。その中で、考えたり気付いたりといったことが「自己肯定感」を高めることにつながり、社会に貢献できる人格を育むものと確信している。
- ・課題と今後に向けて・・・取組が盛りだくさんで、生徒会やボランティア委員への負担が大きくなっている。学校内での取組の割り振りや分担を考えるとともに地域交流活動の取組への参加を見直さなければならない。